

キャリア教育研究への教育的アプローチ —海外でのフィールドワークを事例として— 開催レポート

2020年2月22日、学習院大学にて研究推進委員会企画の講習会「キャリア教育研究への教育的アプローチ—海外でのフィールドワークを事例として—」が開催されました。講師に京免徹雄（筑波大学）会員をお招きし、フィールドワークの研究方法や論文執筆方法に関する講習会を行っていただきました。

第1部では、フィールドワークにおける研究計画の立て方について、問題の所在をどのように明確化し、研究の問いをどのように立てるか、また、多様な質的研究の中で自身が選択する方法論を存在論や認識論から理解することの重要性や事例研究の場合の事例の選択方法、研究意義を導出するための分析枠組みの検討の仕方など、理論的な背景もまじえながら説明いただきました（資料内「1. 研究計画を立てる」）。第2部では、フィールドへの出方について、どのように調査内容を絞り込んで調査依頼をし、インタビュー方法の選択・実施し、フィールド・ノートをとるかなど（資料内「2. フィールドに出る」）、調査結果の分析方法について、どのようにインタビューを逐語録にし、オープンコーディングを行い、カテゴリーを創出し、コーディングを行うかなど（資料内「3. 調査結果を分析する」）、海外研究でフィールドワークを行う際の困難点をふまえて解説いただきました。さらには、論文投稿について、質的研究で投稿し、修正・採択に至るまでの留意点などを、ご自身の投稿結果をまじえながら詳解いただきました（資料内「4. 論文を投稿する」）。第3部では、参加者のみなさんに3グループに分かれていただき、フィールドワークに関する質問を共有し、講師に質疑応答をするという時間が設けられました。



3時間では足りないほど、フィールドワークの研究方法を網羅的に取り上げていただきましたが、ご自身の経験をもとにした具体例を多く取り入れてくださり、研究の流れに合わせて解説して下さったため、フィールドワーク研究をしたことがない参加者の方にも非常にわかりやすい内容だったようです。以下に、講習会の感想をいくつかご紹介します。

- ・フィールドワーク調査に限らない研究の基本的な部分から、調査現場における協力者との具体的なやりとりなど、調査の方法についてリアリティのあるお話をお聞きすることができ、大変勉強になった。
- ・フィールドワークでの現地の人々とのネットワークの作り方投稿論文のプロセスなど細やかな技術も多く学ぶことができた。
- ・研究の進み方の“全体像”を段階ごとに解説してくださったため非常にわかりやすく、「自分自身の研究はどう位置づくか」を想定することができ、理解が深まった。
- ・自分の研究の迷っている点や困っている点が今回の講習会によって明らかになった。

当日は、本学会内外から19名にご参加いただきました。会員のみなさまから「質的研究」に焦点をあてた講習会の開催を期待する声が多く、その声に応える形で本企画が実施されました。今後も研究推進にかかる企画を検討・実施していきますので、会員のみなさまからのご要望をお待ちしております。機会がありましたら、ぜひご参加ください。

なお、当日の資料は加筆修正を行い、後日web pageにて公開を予定しております。ご参照いただけますと幸いです。



日本キャリア教育学会研究推進委員会
文責：杉本英晴(駿河台大学心理学部)